

# 地域研究企画交流センターの 組織再編にあたって



## 地域研究企画交流センター

- 押川 文子 (おしかわ ふみこ) 南アジア地域研究  
 ウィル・デ・ヨン ポリティカル・エコロジー論  
 阿部 健一 (あべ けんいち) 東南アジア地域研究、生態史  
 村上 勇介 (むらかみ ゆうすけ) ラテン・アメリカ地域研究、政治  
 帯谷 知可 (おびや ちか) 中央アジア地域研究、現代史  
 山本 博之 (やまもと ひろゆき) 東南アジア地域研究、現代史  
 石井 正子 (いしい まさこ) 東南アジア地域研究、社会学  
 篠原 拓嗣 (しのはら たくじ) 情報学  
 小森 宏美 (こもり ひろみ) 北欧地域研究、現代史

国立民族学博物館地域研究企画交流センター(地域研)は、本年三月末をもって廃止され、現教員は全員四月に京都大学に移り、京都大学から加わる研究者とともに全国共同利用施設(試行)「京都大学地域研究統合情報センター」(京大地域研)として活動した。一一年一〇カ月の間に賜りましたご協力とご支援に、あらためて厚く御礼申し上げます。

地域研は、一九九四年六月、世界各地を対象とする大規模な地域研究機関の設置をもとめる研究者の長年の努力をもとに、その段階的・暫定的措置として国立民族学博物館に附置する形態で設置されました。定員一〇名の小規模な研究組織ではありましたが、設置以来、民博というまたとなしすばらしい研究環境のもとで、「世界研究としての地域研究」という設置理念に沿った研究活動をおこなってまいりました。地域研究のネットワーク構築を目標に、地域研究に関連する諸分野の研究者の協力を得つつ、毎年度一五本程度の連携・共同研究、三件の国際シンポジウム、国際共同研究(ヘル・プロジェクト)、機関誌「地域研究」の刊行などを通じて、幅広い地域研究の内外の交流を実現してきたと自負しています。また、全国の地域研究に関わる多くの組織とともに、地域研究の全国的ネットワーク「地域研究コンソーシアム」を結成し、立ち上げ期の事務局として役割を果たしたことは、地域研究員一同にとって大きな喜びでした。

こうした地域研の活動は、「みんぱく」の豊かな研究基盤と研究者仲間たちとの交流、そして事務部門の支援があつてこそ実現されてきたものでした。とりわけ

民博の伝統である自由闊達な研究風土や、博物館をもつ研究機関として社会に開かれた活動形態は、私たちが新しい地域研究のあり方や研究システムを考えるうえでかけがえのない糧になりました。しかし、活動が拡大するにつれて、規模の問題、そして学問分野横断的な地域研究組織を、文化人類学の先端的研究機関である国立民族学博物館に置くことの難しさも明らかになり、今回の地域研再編に至りました。

同時に、今回の組織再編は、グローバル化のなかで世界各地がかつてないほど緊密に連関しあう今日の状況に対応し、地域研究を模索してきた地域研究者の選択でもあります。新設される京大地域研では、地域間の相互関連を重視する地域研究をこれまで以上に強力に推進するほか、多様な形態をとる地域研究情報の即時の共有化や地域情報学の構築など、世界各地への理解を深めるための基盤である地域に関する知の共有化に取り組んでいきます。民博地域研として展開してきた研究活動やコンソーシアム事務局としての機能も、若干の再編をおこなったうえで、京大地域研が継承します。

地域研にとって、組織再編は、新しい出発です。「民博地域研」として蓄積してきた研究と活動経験を土台として、京都大学から加わる新しい同僚とともにあらたな決意をもって、地域研究の推進とネットワークの構築に取り組む所存です。

「民博地域研」から「京大地域研」へと組織は変わりますが、今後とも引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(押川 文子)